

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501829		
法人名	有限会社 プラクティス		
事業所名	グループホーム せせらぎ		
所在地	札幌市豊平区平岸7条13丁目2-8		
自己評価作成日	平成23年12月24日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://77.system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501829&amp;SCD=320">http://77.system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501829&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年2月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を意識しながら利用者の方々が無理せず本人のペースに合わせて居心地良いアットホームな雰囲気を目指しています。昼間は、家族の方々がいつも来所しやすいように玄関に鍵はかけていません。事業所開設からペットとして犬と猫を飼っています。月寒公園に隣接し、同一町内会に運営する小規模多機能、グループホーム2事業所が併設及び隣接しており、夜間においても9~10名のスタッフが協力体制を整えるよう努力しています。

グループホーム「せせらぎ」は豊平区の閑静な住宅街に建ち、周辺には月寒公園、望月寒川、アンパン道路と自然環境に恵まれ、利用者は四季折々の風景を楽しみながら、豊かに暮らしている。事業所は平成15年に開設された。現在は小規模多機能型居宅介護事業所と高齢者マンションが併設されている。近隣には同法人のグループホーム2事業所があり、四事業所合同での利用者交流、行事、職員研修、火災対策などの協力体制が築かれている。職員は理念の「きまま、わがまま、いいかげん」という利用者の普通の生活をあたりまえに過ごせるように、理念に基づいたケアを実践している。医療体制も充実しており終末期ケア、看取りも行ない、利用者が重度化した場合でも住み慣れた場所、馴染みの人、ペットの犬や猫と一緒に穏やかに安心して暮らすことができる環境にある。運営推進会議は四事業所合同で開催され、地域住民の意見を取り入れ、外に非常ベルを取りつけるなど事業所運営に活かしている。また事業所がもっている知識や技術を地域に還元しようと、事業所通信を回覧するなど、地域に根ざす努力をしている事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をもとにケアを心がけ普通の生活をあたりまえに送ることのすばらしさの支援を目指している。事業所独自の理念もあり、毎月の目標をたてケアにつなげていくようにし、確認している。	法人理念と事業所独自の理念、目標を掲げ職員全員で共有し、普通の生活をあたりまえに過ごせるようにと、理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事に近隣の方や家族への呼びかけはしている。他事業所と合同行事もしている。町内会にも加入し、少しでも行時にも参加できるように努めている。	町内会のお祭り、花火大会、月寒アンパン道路の清掃、花壇づくりに参加している。事業所主催の納涼まつりに地域住民の出席もあり、地域との交流を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、説明や質問に応じている。実習生やインターンシップの受け入れをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、職員にも伝えている。	会議は定期的に四事業所と合同で開催され、地域住民、家族代表、包括支援センター職員が出席し、事業所の現状報告、活動内容、避難訓練報告がされサービスの向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事は市や区の担当者に聞き、管理者会議や連絡会議、研修など参加しカンファレンスや勉強会で報告しケアに役立てるようにしている。運営推進会議には地域包括センター職員も参加しているので意見交換をしている。	市や区の担当者とは連絡を密にとり、情報交換を行なっている。区センターの紹介により講師を招き、災害対策の勉強会を開くなど協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は、なぜいけないのか？その都度話をし指導している。拘束はせずに見守りをしながら危険があるときは声かけをし、その都度対策を考える。玄関の鍵は、夜間のみしている。	身体拘束のないケアの実践を目指し、研修を四事業所と合同で行なっている。日中は玄関の施錠をせず、安全に配慮しながら見守り支援をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃、ケアをしながら虐待について話したり身体状況は、注意し観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括の職員の方に来て頂き資料を見ながら勉強会を行ったが、現在制度を利用している方が居ない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、本人様に見学をして頂きホームの雰囲気を見て頂き利用料や契約についてなどの説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言ってもらえるような雰囲気作りと苦情があった場合は、前向きに受け止めカンファレンスで話しあい、全体会議にも報告をし意見を聞く。本人や家族の意見、要望を聞き話し合いもやっている。意見箱も設置している。	「せせらぎたより」を毎月発行し、行事報告、利用者の様子を細かく伝え、電話や来訪時に意見、要望を聞いている。年1回の家族アンケートを行ないこれらの意見、要望を運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスを行っている、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。職員の意見、要望があれば会議時に代表に伝え検討してもらう。状況に合わせて個人面談をしている。	運営者、管理者は毎月の全体会議で職員の意見や要望を確認している。個人面談を行ない意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当てや介護職員改善交付金事業を取り入れている。毎週、代表と各事業所管理者との会議があり職員勤務状況なども報告している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、全事業所の勉強会を取り入れ新人の入職時は、新人研修会も行っている。外部の研修にも参加できる機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会参加や研修会には参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や情報を聞いたり必要な情報は、伝えながら、本人の不安、要望に対応できるように話をしながら一つ一つ方法を確認し関わりを持っていく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族から困っている事、不安な事などの相談や苦情はその都度聞き管理者、職員で話し合い解答や改善をするよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認しながら支援の提案をするが、押し付けたり、決めつけないようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理せず、できることのお手伝いを一緒に関わりながら、生活を共にする関係作りをしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子はできるだけ伝え、家族の思いも伝える。時には協力をして頂くこともあるが、家族関係は、それぞれ違いがあるため理解し相談をしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度化により関係作りが難しくなっている人もいるが、家族や友人など支えてきた人との関係がとぎれないように努めている。季節に合わせてドライブに行ったりする。	今迄の生活歴を尊重し、馴染みの理美容室や馴染みの場所へのドライブ、家族、友人との関係が継続的に出来るよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口ゲンカになり仲裁に入る事もあるが、孤立しないように声かけをし、興味のある事などをしながら関わり合いを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された直後は、必要時相談などの継続はある。時には、連絡をすることもある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ今までの生活習慣を大事にし毎日の生活のなかで本人の思いや表情を読み取り把握に努めている。家族と本人と話し合いをしながら支援している。	本人の表情や言動、家族の情報、日々の記録から希望、意向把握に努め、本人の意向に沿った支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や家族情報、本人との会話、生活の中から確認し引き出すよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の状況を把握し本人のペースに合わせた過ごし方に努めている。引きこもりにならないようにもしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行いながら職員一人ひとりが全員のモニタリングをし本人や家族に要望を取り入れながらケアプランを作成しケアのあり方も見直すようにしている。変化のある時は、すぐに取り入れる。	本人、家族、医師、関係職員と会議で検討し、全職員で情報を共有している。3ヶ月毎にモニタリングを行ない、状況変化時には見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子で気づいたこと、本人の言葉など記録し変化に気づき良いケアができるように工夫し、申し送りには情報を報告しカンファレンスで話ができるようにもしている。家族に、記録の開示もしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況にあわせた生活が維持できるように支援し看取りなど要望による支援もしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の買い物をしたり近所の公園へ散歩(夏場)		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や本人、家族の希望する病院受診も状況により付き添っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医とは連絡、通院支援をしている。提携医による月2回の往診や訪問看護の利用で健康管理を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の様子や体調の変化など看護師に報告や相談をし必要であれば受診をしている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は、できるだけ混乱が少なく済むように普段の状況を正確に伝え提供できる情報は伝えている。病院、家族との連絡は取るようにしている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての方針を伝え、確認をとり、同意書をいただいている。その後は、本人の重度化に伴い本人と家族の思いや要望を取り入れながら話し合いを随時行いホームでできる支援に努めている。状況に応じ主治医に細かく報告している。	重度化した場合については、契約時に本人、家族と話し合い同意書を交わしている。変化が生じた場合は家族、医師、看護師、関係者と情報を共有し、連携をとりながら適切に支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練はできていない。急変や事故があった場合には、対応の仕方など再確認はしている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定とした全体での避難訓練を実施しその際地域の方と他事業所の協力も得ている。運営推進会議や家族に結果報告もしている。火災通報動作の再確認や災害の勉強会をしている。研修会の参加もしている。	避難訓練は年2回夜間を想定し、消防署、町内防火委員、利用者、他事業所の協力を得て実施している。火災通報動作の再確認や災害の勉強会をしている。	事業所での防火、避難場所確保や近隣事業所との協力体制は確立されている。玄関には非常用持ち出し袋が備えられているが、法人全体としての備蓄品等の確保を検討しているので期待したい。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し介護させていただくという意識を持つことを心がけているが、今後も言葉使いには、注意していきたい。	職員は一人ひとりの人格や誇りを尊重した接遇を行なっている。個人情報記載記録は適切に管理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望にあわせた生活ができるように努めている。声かけしながら自分で決める場面作りもしている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のリズム合わせた対応をしている。無理せず本人の意思を尊重しその日の状況に合わせている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を希望時にお願している。季節にあった服を選んだりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聞き取り入れたり、食器ふきや下膳、米とぎなど、できる方はお手伝いしている。職員と、食卓を囲みながら一緒に食べている	利用者希望のバイキングやなべ料理を献立に取り入れ、食事が楽しくなるよう工夫をしている。食材はとろみやきざみ食にして柔軟に対応している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量はチェックし水分の少ない方には、声かけをしたり、ゼリーなど工夫をしている。食事量、食べ方などを観察し状況に応じてキザミ、ミキサー、トロミ食など工夫をしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後声かけと見守り、全介助で行っている。入れ歯、口中、舌のチェックをしている。必要時訪問歯科による治療とケアを取り入れている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情の観察や行動、排泄チェックをしながら本人のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。	個々の排泄チェック表を作成し、声かけに配慮している。布パンツを使用し、紙オムツに頼らない自立に向けた排泄支援を促している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し必要に応じて下剤調静をしている。牛乳やヨーグルト、乳酸菌飲料なども取り入れている。体操やマッサージなど体を動かす工夫をしている。水分量チェックをしている			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間の目安はあるが、その日の体調や状況で対応している。足浴、清拭も取り入れている。	一人ひとりの希望を取り入れながら、精神面や安心感に配慮した入浴支援を行なっている。足浴、清拭も取り入れている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼間でも休息していただき一人ひとりの生活リズムを大事にしている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の数量チェックや目的、副作用、名前の確認をし服用時には再度名前を確認している。体調の変化時は、観察をし医師に報告している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた体操、散歩や家事などの役割、趣味活動を支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院や買い物、散歩、お祭りなど予定を立てている場合もあるが、その日の天気や状況、本人の体調にあわせながらドライブに行っている。	天候や利用者の体調に配慮しながら散歩、買い物に出かけ、事業所前では焼き肉パーティーも行っている。季節の外出行事(ドライブ、夏祭り等)を実施している。	冬季間、日光や外気にふれる事ができるよう、一人ひとりのケアプランを検討しているので期待したい。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことで安心して過ごせることができたり、買い物時には、自ら支払いができるようにもしている。金額によっては、ホームで管理もしている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話をかけている。電話をかける相手にもよるので事前に家族に問い合わせることもある。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり行事に合わせた手作りの貼り絵など掲示している。事業所内は、床暖なので全体に暖かく、安全。室温を確認し換気をしながら温度調節をしている。音楽をかけたたり、テレビの音量などにも工夫をしている。	事業所全体が床暖房であり、安全と快適さに配慮されている。リビングには季節の花や観葉植物が育てられ生活感がある。ペットとして飼われている猫が利用者団樂の中で癒しの役目となっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置いたり離れた場所にあるイスやデイルームで好きな時間を過ごしていただく工夫をしている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたタンスなど馴染みの物や使い慣れた物など本人、家族と相談しながら生活しやすく過ごせる工夫をしている。	居室はテレビや使い慣れた家具が置かれ、思い出の品を飾るなど一人ひとりの生活スタイルに合わせた、安心して過ごせるよう配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーや手すりを設けている。日常使用する場所は、表示をしている。失敗しても責めずに支援し、できることは、見守り、できないことは、介助しながら安全に努め残存能力を尊重した生活の工夫をしている。			